

平成29年度 年間授業計画

都立竹早高等学校

教科	家庭	科目	家庭基礎	学年	1
担当者	石塚 多恵子	三野 直子	和泉 よしの	単位数	2
使用教科書	東京書籍「家庭基礎 自立・共生・創造」				
使用教材	最新生活ハンドブック 第一学習社				
教科・科目の 指導目標	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。				

月	期間	指導内容	具体的な指導目標	予定時数
4 月 5 月	1 学期 中間 考査	(1)人の一生と家族・家庭・福祉 青年期の自立 家族・家庭	青年期は、自分の存在や生き方を考え、アイデンティティを確立する時期であることを認識する。 いまだ根強く残っている性別役割分業意識について実情を知り、どう解決していくべきか考える。 家族・家庭に求められている諸機能とその変化について理解する。 家族形態の相違による家庭生活のあり方について検討し、その多様性を理解する。 多様化・個性化の時代を迎え、家族をまもる法律の重要性がいちだんと増していることを理解する。	6×単位数
6 月 7 月	1 学期 期末 考査	家族を守る法律 (2)生活の自立と消費・環境 被服管理と着装	人の一生と法律のかかわりおよび家族に関する法律について理解し、改正案と比較しながら現行民法の問題点を考える。 被服の機能には、保健衛生的機能と、社会的・文化的機能があることを理解する。 人間は体温を一定に保つため、被服の素材やデザイン、着装の工夫によって快適な被服気候をつくり出してきたことを理解する。 布の原料である繊維の種類と特徴を理解する。身のまわりの布がどのような繊維で作られているかに関心をもつようにする。繊維の性質や糸・布の構成などによって布の風合いが異なることを知る。繊維に施されている加工について、その目的や用途を	6×単位数
7 月 10 月	2 学期 中間 考査	(1)人の一生と家族・家庭・福祉 社会保障 (2)生活の自立と消費・環境 食事と健康	人の一生と起こりうるリスクを考え、社会保障の仕組みを知る。 消化・吸収について学ぶ。エネルギー源としての糖質、腸内環境を保つ食物繊維について学ぶ。 エネルギー源として、また体構成物質として働く脂質の役割について学ぶ。 体の組織をつくるたんぱく質とそれを多く含む食品について学び、たんぱく質の補足効果を理解する。無機質・ビタミンの種類と働き、それらを多く含む食品や欠乏症について学ぶ。 食品の選択・計量・器具の取り扱い、および包丁の使い方、野菜の切り方など調理の基本技術を習得する。マナーを心得て食事ができるようにする。	7×単位数
10 月 12 月	2 学期 期末 考査	(2)生活の自立と消費・環境 消費を考える (1)人の一生と家族・家庭・福祉 次世代を育む	食品の品質表示、栄養表示をとおして内容を読み取り、身体状況に応じた食品を選択できるようにする。 ライフステージに合わせた食事計画を立て、1日3食のバランスがとれた形で作れるようにする。 家計の構造を理解し、家計の管理について理解する。リスクへの対策も考慮し、短期・長期の両面からの経済計画が必要なことを理解する。 消費者関連のさまざまな法律が制定されていることを理解する。契約の重要性を理解し、契約トラブルの状況を理解し、消費者被害が起こる原因とその対策、予防法を考える。 新生児、乳児、幼児それぞれの時期の特徴について理解する。子どもの発育・発達には個人差があるが、一定の順序と共通性があることを認識する。	7×単位数
12 月 3 月	学 年 末 考査	学 年 末 考査	子どもの人間形成にかかわる親の役割について、愛着の形成の重要性を理解する。集団保育の意義や特徴を理解する。 遊びをとおして子どもの心身の発達や健康の維持・増進がなされていることを理解する。子どもの人権や福祉についての理解をはかる。 子育て支援について考え、よりよい保育環境を保障するために、地域や社会が果たす役割について考える。 豊かな生活経験を持つ高齢者から学ぶことが多いことなどについて理解する。日本の高齢化の現状について理解し、将来の高齢社会のあり方を考えていく。	9×単位数

評価の 観点・方法	プリント・作品・レポート等の提出物、授業の出席状況、授業・実習への参加意欲、学校家庭クラブ活動への参加、考査により総合的に評価する。
--------------	--